



聖徒のための情報誌

今月号の内容

日蓮大聖人のご降誕(1面)
妙正寺清道衆信行講習会・受講者の感想文・龍雲寺本堂新築地鎮祭・上棟式(2面)
日蓮大聖人の歩まれた道法華経のお話(3面)
よろこび法話(4面)

平成26年(2014年)2月1日(土)

2月号

発行所
〒101-0051
東京都千代田区神田神保町3-25-11
九段中央ビル702
日蓮宗霊断師会九段事務所
電話 03-6272-9340
FAX 03-6272-9341

日蓮宗霊断師会

会長 新聞 智雄
編集人 松本 恵昌
購読料 1部 105円
毎月1回1日発行

日蓮宗霊断師会ホームページ
http://www.yorokobi-reidanshikai.jp
よろこび投稿メール
yorokobi@yorokobi-reidanshikai.jp

日蓮大聖人のご降誕
大聖人様のお誕生を祝し、
報恩と感謝のお題目を
お唱え致しますよう



日蓮宗霊断師会 伝道局局长
広島県福山市 常國寺聖徒団团长
濱田 壽教

今月十六日は、宗祖日蓮大聖人ご降誕のご聖日です。本年第七九三回をお迎えします。

私達をみちびき、お題目信仰をお教え下さった大聖人様のお誕生を祝し、報恩と感謝のお題目をお唱え致しますよう。

大聖人様は、本年と同じ午年の貞応元年(西暦一二二二)、安房の国東条小湊(現在の千葉県鴨川市小湊)にお生まれになりました。父の御名は貫名次郎重忠、母は梅菊と伝えられています。

誕生の朝、庭先から突然清水がわき、浜辺には蓮華の花が咲き誇り、大鯛小鯛が無数に舞うと云う御降誕の奇瑞が伝えられています。これら三つの奇瑞に依るものでしょうか、ご幼名は、大日輪・太陽そのものであると云う「善日磨(ぜんにちまろ)」と名付けられました。

十二歳の夏、善日磨は当時安房の国の最高学府であった清澄寺に登られ、名を「葉王磨(やおうまろ)」と改名され、師僧道善房のもとで勉学の手ほどきを受けられます。そして、十六歳になられた十月八日、剃髪得度、僧名を「是聖房蓮長(ぜしやうぼうれんちやう)」と改められます。正式な学僧とされた大聖人様は、更に研鑽、積尊、一



代の諸経典を讀破され、その奥義を確かめていかれます。

「凡血の笹」
若き日の大聖人様

ご降誕の聖地をはじめ、出家得度された清澄のお山には、若き日の日蓮大聖人にまつわる多くの伝説が残されています。その一つに、修行と誓願を物語る「聖人凡血の笹」があります。

学僧となられ、仏道修行と勉学に励まれる大聖人様は、清澄寺の開山・不思議法師が自ら刻み開眼された、「智慧と福德」を授ける虚空蔵菩薩が祀られているお堂に入られます。「積尊一代の経典を学び、仏道を究めるには、この命に代えても、大い

なる智慧を授けられ、成就することには叶わない。願わくば、私をして日本第一の智者となさしめ給え」と、一心に誓願成就を修する、二十一日間の断食行に入られたのです。清澄寺の人々は、大なる理想と凄まじい願行に驚嘆しました。
やがて満願の朝、薄れゆく意識の中、ついに虚空蔵菩薩が大聖人様の現前に現れます。そして虚空蔵菩薩より智慧の宝珠を授かり、お堂を出られると、大量の血を吐き意識を失われます。
回復されるや、大聖人様の修行と勉学は、いよいよ高まります。清澄寺の人々は「尊い修行により、凡夫の血を吐き、聖なる人となられたのだ」と敬いの心をもたれたと伝えられています。
虚空蔵菩薩が祀られるお堂の裏山には、血痕に似た斑点が映る笹が自生し、これを「聖人凡血の笹」と呼ぶようになりました。
晩年、身延山に於いて著わされた『清澄寺大衆中』という妙判には、「生身の虚空蔵菩薩より大智慧をたまはりし事ありき。日本第一の智者となし給へと申せし事を不便(ふびん)とや思しめしけん。明星の如くなる大宝珠をたまひて、右の袖にうけとり候し故に、一切経を見候しかば、八宗並びに一切経の勝劣、ほゞ是を知りぬ」
若き日の大聖人様の偉大なる願いを拝見すること出来ます。

「大聖人様の願いと共に」

大聖人様がお生まれになられた当時は、八宗・十宗と仏法は隆盛し、堂塔伽藍は軒を連ねていました。し



かしその一方で、社会・人心は乱れ、天災地変・飢饉疫病等が加わり、人々は苦しみにあえいでいました。なぜこの様な事が起こるのか。大聖人様の疑問はこの一点にありました。

「日本第一の智者となし給え」との願いは、積尊、一代の教えの中から、真実の教えを究め、現実の苦海に没在する人々を救済し、安らかな世界を顕現するという大慈大悲の願行であられたのです。

積尊出世の本懐は法華経である。法華経の眼目は「妙法蓮華経」五字・七字の題目である。という、大聖人様のご遺戒を、私達は心して頂かねばなりません。

「末法にして妙法蓮華経の五字を弘めん者は、男女はきらふべからず。皆、地涌の菩薩の出現にあらずんば唱へがたき題目なり。(中略)ともかくも法華経に名をたて身をまかせ給うべし。」(諸法実相鈔)

私達は今、有り難くもお題目信仰に有ります。「地涌の菩薩」は、大聖人様と同じく人々を救い、共に歩むことをご本仏様に約束して、この世に生まれて来た人をいいます。私達もお題目を弘める、その一人一人に他なりません。ご聖日には、大聖人様の大慈大悲の御心と、自らの使命を思い起こし、心よりお題目をお唱え致しますよう。

津軽宇田山 閻法寺
3月2日(日) 午前10時半より
正伝師円成
国 禱会
〒030-1403
青森県東津軽郡外ヶ浜町平館元宇田52-2
TEL 0174-25-2712
住職 工藤 堯幸
副住職 工藤 堯慎・修徒 工藤 堯顯

妙正寺聖徒団 金子 英雄
旭川FMリベールFMラジオ 83.7MHz
「マダムケロのちよと長話」
2月5日、18日午前11時より
「閻魔大出演中」
インターネットでも聞くことができます
サイマルラジオから
旭川FMリベールをクリック
2月2日(日) 11時
節分厄払大祈禱会。 釈尊涅槃会。
毎月1日午前10時
盛運祈願会
妙正寺聖徒団 团长 関 龍雄
〒071-1423
北海道上川郡東川町東町2丁目6-3
TEL 0166(82)2714 FAX 0166(82)2914

いかされるよろこび
美濃乃國
常唱寺 聖徒団
〒501-3734
岐阜県美濃市千畝町2738-2
TEL/FAX 0575(33)1430

本山 妙顕寺
天目聖人御報恩
平成屋根等大改修
ご寄付募集中!
郵便振替
口座番号 00180-6-267327
口座名義 妙顕寺建設委員会
〒327-0843 栃木県佐野市堀米町264
TEL 0283-22-1524
FAX 0283-22-4194
http://www.sano-myoukenji.jp

日蓮宗霊断師会会長
感通寺聖徒団团长
新聞 智雄
〒162-0044
東京都新宿区喜久井町39
TEL 03-3209-8782
FAX 03-3208-7966

「妙正寺清道衆信行講習会」を開催

昨年十一月十七日、北海道上川郡東川町妙正寺聖徒団(関龍雄団長)を会場に、「妙正寺清道衆信行講習会」が開催された。

十回目を迎えた当講習会には、講師として本部総合研究所所長・齊藤朋久講師(栃木県本山妙顕寺貫首)、神奈川県小田原市より戸田雅子講師をお迎えし、また今回は、北海道富良野市・本要寺聖徒団(齊藤朋久団長)、同旭川市・斎祥閣聖徒団(佐藤鳳晃団長)も参加し、男女合せて四十五名という多数の聖徒が受講した。

午前八時三十分より妙正寺聖徒団・関龍雄団長御導師の下、法味言上。受講者全員で読経の後、午後三時半までの四講に亘る講義が開始された。

第一・二講では齊藤朋久講師より、何故宗教が必要なのか。人類をまとめていくには仏教、特に法華経が肝要である。そして本来自分自身は仏の身であり、それに気付く事が仏としての用(佛用)を起こす原動力になる。俱生神月守を着帯しての数々の奇跡がその証明であるとの講義を頂いた。

戸田雅子講師は女性の立場から見た信仰のあり方。嫁・姑との関係。うらみをうらみで返すのではなく、相手の身になって、そのうらみを忘れ去っていく、



心の広い日蓮魂の精神でいくべきであると講義頂いた。

齊藤講師の理論的なお話と、戸田講師の実体験を交えたユーモア溢れる講義で、飽きる事なく気が付けば閉講式という、あっとい間の講習会となった。

十回目の節目となる講習会を終えた受講者一同は、熱い決意をもって信仰を持ち、弘めていく事を誓い、盛会のうちに講習会は無事終了した。

妙正寺清道衆信行講習会

受講者の感想文

北海道東川町 妙正寺聖徒団

深山 堅悦

第十回目を迎える妙正寺清道衆講習会に参加させて頂きました。齊藤先生、戸田先生からご本人の体験談をユーモアを交えながら長時間に渡り、親切に分かりやすく講義いただきました。熱い思い溢れる講義を受講し、私達も真剣そのもので、時間が経つことも忘れ、心を打たれました。

人にはそれぞれ道がある。しかしその道の先はよく見えず、人は誰もそれに気付かない。これからも月守を拝受・着帯し、日々の信仰を深め、神仏のご加護に感謝し、盛運を祈っていきたくです。

北海道富良野市 本要寺聖徒団

井山 愛子

私は、菩提寺・本要寺の齊藤ご住職が講義なされると云う事もあり、本要寺の三名の仲間と妙正寺さんの清道衆講習会に参加させて頂きました。

テキストは「みおしえ」でお釈迦様の教えから日蓮大聖人の御教えと順序立ててお話しがされ、仏教の教えの中でお題目の信仰が私たちを導いてくださる最も重要なものと云う事が良く理解できました。

また小田原からいらした戸田雅子先生は、日常の生活の中で私たちがいかに法華経の教え、お題目の信仰を生かしていけば幸福になれるかわかりやすく、楽しくお話ししてくださいました。

この清道衆講習会で学んだことを、菩提寺の本要寺を中心とした私の今後の信仰生活に役立てたいと思います。

北海道旭川市 斎祥閣聖徒団

江藤 公得

妙正寺清道衆講習会に初めて参加させて頂きました。

講師先生方のユーモアあるお話で、アツという間の楽しく有意義な講習会でした。

今までの私は多くの我欲がありました。先生方のお話を聞いて過欲(過ぎたる欲)を捨てる事を一番に学びました。

自分の幸福に感謝し、人の幸せと一緒に喜び合い、「南無妙法蓮華経」と唱え、人と調和を取り生活しなげればと、再認識させて頂きました。

また、講習会で頂いたプリント「努めて明るくふるまう」を一日一回大きな声で呼んでいると、不思議に笑顔になり、毎日が楽しくなりました。

来年も是非講習会に参加したいと思います。

北海道旭川市 斎祥閣聖徒団

中村 論代

初めて参加させて頂きました。

講習会は長時間の勉強というイメージがありましたが、分かり易く仏教・法華経・人生についてお話を頂きました。

何故苦難があるのか？全ては自分の魂のレベルを上げるチャンスなのです。一人が皆の、皆が一人のためにお題目を唱え、仏としての振る舞いをする事で社会での自分の役割を果たすことができ、自身の過去世

からの目的を果たせるのだと強く心に思いました。意識と喜びを分かち合い、総和の世界に近づく努力を始める。まずは、自分の本能と意識の調和。これを整えるのはお題目あるのみ。そこに喜び、幸せ、平和があるのだと強く心に刻み、一生忘れない数々のお勉強をした一日でした。

宮崎県龍雲寺聖徒団にて本堂新築 地鎮祭・上棟式が執り行われる

宮崎県湯原郡農町 龍雲寺聖徒団(吉田憲由団長)にて九月二十八日快晴の下、本堂新築に伴う地鎮祭が「古式四十九院法」に則って執り行われた。

約六十年間檀信徒を見守り続けた本堂は、屋根は波打ち、天井は下がり、根太は腐れ、狭隘も増したことから、龍雲寺では五年前より新築の計画を立て、今般の着工に到った。

「聖徒全員での引越しに始まり、佛像仏具の仮遷座、解体、そして四十九院法にての地鎮祭と、一連の式典を通じて仏様への報恩の一端と、旧本堂六十年の歴史を想い、手を抜かずの一つ一つを精一杯させて頂きました。この事業に係わらず、全てに於いてそうでありたい」と住職。



お祝いの餅まきをする吉田憲由団長



ご子息吉田叡史さんによる地鎮祭「破魔矢の儀」



龍雲寺聖徒全員での引越し

全国各地で「清道衆講習会」を開催

- 平成二十五年十一月四日、東京都感通寺聖徒団にて開催
 - 平成二十六年一月二十日、宮崎県本東寺聖徒団にて開催
 - 同 一月二十一日、宮崎県龍雲寺聖徒団にて開催
 - 同 二月二十六日、広島県常國寺聖徒団にて開催予定
 - 同 三月十三日、千葉県妙善寺聖徒団にて開催予定
- 詳しい記事は来月以降、随時掲載致します。

第三十二回 日蓮大聖人の歩まれた道 鎌倉での修学(その九)



総合研究所
教学研究部長
小泉 輝泰

「禅宗はまたこの便を得て持斎等となつて人の眼を迷かし、たつとげなる気色なれば、いかにひがほうもんをいゝるへども、失ともをほへず。禅宗と申す宗は、教外別伝と申して、釈尊の一切経の外に迦葉尊者にひそかにさゝやかせ給えり」

(撰時鈔)

蓮長は浄土宗の教義の修得と併せ、当時新進気鋭の存在として鎌倉武士の間で流行し始めていた禅についても、積極的に学んでいったと思われまます。

めた「曹洞宗」の二大宗派が有名です。但し両師の間には六十歳ほどの年の差があり、道元禅師は日蓮大聖人とほぼ同世代ですので、蓮長が鎌倉で学んでいた当時は、まだ臨済宗が主流でありました。現に鎌倉での禅宗の中心となるのが、以前ご紹介した大聖人のご文章にも見られる「寿福寺」であり、彼の山は栄西禅師によつて開かれたお寺でした。

蓮長もおそらくはそこで禅を学んだことでしょう。年代的に考えますと、寿福寺では栄西の弟子である退耕行勇か、その弟子の了心に師事することとなりますが、残念ながら両者共に学問的に秀でた人物ではなかったと言われています。しかも当時の寿福寺は、完全なる臨済禅を旨とする寺院ではなく、天台や真言等の教義が複合して学ばれていたようなのです。

それと言うのも、鎌倉期における禅宗のスタイルは、「禅密兼修」と呼ばれる禅と密教を兼ねた特殊な存在でした。同じ鎌倉新佛教の開祖である法然上人や親鸞上人と比べ、栄西禅師は強く自流を押し通す性格ではなかったと言われています。禅師の南宋よりの帰国以来、次第に弘まる禅の教えに対して比叡山等の弾圧が厳しくなると、他宗との融合を計つて生き残る道を選んだとされています。



禅宗と言えば、現在では栄西禅師の弘めた「臨済宗」と道元禅師の弘

蓮長が鎌倉にてこれだけ



禅を学びながらも、後々の御書で禅宗についての記述でも、不思議と栄西禅師の名が一切見受けられませぬ。栄西禅師は元々比叡山出身の僧であつたことと併せ、前述のような理由もあつて、天台の密教僧と見なしていたのではないかと考えられます。

いずれにせよ、足かけ五年にわたる修学の日々も、蓮長の抱く疑問を解決してくれる碩学と出会うことは適いませぬでした。鎌倉にて目にした浄土宗や禅宗の興隆も、本当に衆生を救うための佛教であるとは到底感じられなかつたのです。

しかしそれは却つて、蓮長に大きな希望を抱かせるものでもありません。我こそが釈尊の真実義をこの手に掴み、一切衆生を救済する佛の使いとならん、との偉大な使命を得る為の大切な経験でもあつたのです。

若き蓮長の中で芽生え始めた使命を胸に、鎌倉での日々を別れを告げ、いよいよ故郷の人々が待つ清澄への帰山を決意するのでした。

法華経のお話 30



総合研究所主任

塩入 幹丈

無量義経の段十四年二月

大轉輪王小轉輪王。金輪銀輪諸轉輪王。(無量義経徳行品第一)

①「結婚して姓が変わってもいいよ、記念体育館はサオリーナと名づけたい」
(吉田沙保里)

トヨトミノ秀吉こと羽柴藤吉郎豊臣朝臣(とよとみのあそん) 秀吉は、苗字が羽柴で姓は豊臣。で、本当の名前が秀吉となります。

秀吉と言えば、まるでピチュウ↓ピカチュウ↓ライチュウの如く、木下↓羽柴↓豊臣と華麗なる三段進化で出世して行つたと思われがちですけど、実は苗字が変わつたのは木下から羽柴の一回だけ。
豊臣の姓を帝から賜つても、羽柴が苗字であることには変わりないんです。

かように、関白となるため秀吉は新たな姓を賜り、家康は幕府を開くために武家のスーパーブランドたる源の出身(すいません！前回、家康は最初、平姓だつたというのは勘違いでした！ホントは最初、公家のスーパーブランドたる藤原家を名乗つてたんです。で、それをあつさりないことにして、だと主張したわけなんです(信長は行く行くどうしたかつたんでしようね)。で、今となつては信長と家康は苗字とセットで、秀吉は姓とセットと、多少の違いはあつても、三人揃つておくり名ではなく、存命中の本当の名前、本名で名を遣しちやつたわけなんです。



②「藤きちろう、れんれんふそくのむね申のよし、こん五たうたんくせ事さまほとんハ、又二たひ、かのはげねすみあひもとめかたきあひた」
(織田信長)

されどされど、信長・秀吉・家康は、たしかに本人自ら使用していた、まぎれもなき本名ではあるんですが、(再三しつこく言つてますように) 実はこの本名というものが、みだりに他人が口にすべきもんじゃなかつたんです。ですから秀吉が「信長様！」と言うのは勿論のこと、信長重臣の面々が「秀吉殿」と呼ぶことすら、ちよつとできない相談なんです。

もちろん上司たる信長だつて、「サル！」とか「ハゲネズミ！」とはよう言うても、人前で「秀吉！」とはそうそう頻繁には(多分)言わなかつたはず。

そう、本名とは滅多なことでは口にすることを忌むべきもの、忌むべき名諱(いみな)だつたんです。

③「上総殿か、入洛めでたし」

(九条植通)

通常、本名(諱)を他人が口にすることは、嚴重なる禁句。で、代わりに口にされるのが、まずは字(あざな)となります。

織田三郎平朝臣信長であれば、「三郎」の部分。羽柴藤吉郎豊臣朝臣秀吉であれば、「藤吉郎」の部分。徳川次郎三郎源朝臣家康であれば、「次郎三郎」の部分の字になります。

家族だけなどの親しい間柄や、プライベートな場なら、この字で呼び合えばいいわけです。

さらに、彼らお偉いさんの場合なら、通常は役職名で呼ばれることになりま

す。これは当然、役職が変われば呼び方も変わるわけですから、信長なら「織田上総介」に「織田弾張忠」等を経て、「右府様」あるいは「上様」へ。

秀吉なら「羽柴筑前守」から始まつて、遂には「太閤殿下」まで。家康なら「三河守」から艱難辛苦の末に「御所様」となり、更に「大御所様」とクラスチエンジしていったわけです。

現代人としては、そんな名前がクルクル変わつて面倒じゃーん！と思つてしまつても、古の人々は本当の名を口にすることを、自他共に憚りました。

そう、昔の人は知つていたのです、名前というものの、本当の意味、神秘なる本質を・・・。名前本来の意味、実はそれこそが、お題目「南無妙法蓮華経」のあの絶大なるパワーの根拠なのです・・・。



よろこび法話

節分

節分に併わせ、祈禱会や厄祓いの法要を行う



日蓮宗断断師会 指導 指導部長
北海道沙流郡平取町照聖寺聖徒団 団長
品田 祥皓

年が明け、早くも一ヶ月が経とうとしています。「お正月に今年こそは…」と心に願いを持った方も多いのではないかと思います。その願いが叶うよう、また、近づけるように願っています。

二月は全国各地、多くの寺院や神社で節分の法要が行われ、「今年一年を元気に過ごせますように」「家族みんながしあわせな毎日でありますように」と願いをこめて「福は内、鬼は外」と威勢よく「豆まき」をします。日蓮宗の多くの寺院では鬼子母神さまをお祀りしてお護り頂いているので「福は内」「善星皆来 悪星退散」などが多いように、私のお寺では「福は内」で豆まきをしています。

本来、「節分」は季節のうつり変わる時を言いますから、立春・立夏・立秋・立冬の



季節がうつる時を言います。昔は太陰暦(旧暦)を使っていたので、十二月下旬か正月下旬が立春にあたり、年越しの時季と重なり、いつの間にか「節分」が立春を意味するようになり、立春の前日が「節分」になりました。

一心欲見佛 不自惜身命

壽量品の自我偈に云く、「一心欲見佛 不自惜身命」云々。日蓮が己心の佛界を此文に依て顕す也。其故は、壽量品の事の一念三千の三大秘法を成就せん事此経文なり。(義浄房御書)

「一心に佛を見たてまつらんと欲して自ら身命を惜まず」

皆さんが必ず聞く、お唱えするお経の一説です。

日蓮大聖人はこの法華経の文によつて、自分の佛性(一大秘法)を顕すことができ、私たちが佛へと導く方法(三大秘法)を顕すことができると言われております。また、「一を妙、心を法、欲を蓮、見を華、佛を經」と解釈し、この法華経を弘めるには不自惜身命でなければならぬ。

自分の命を惜しまない強情な信仰でなければいけないとも言われております。

むずかしい事ですが、この事を私たちは心にとどめて日常生活をしていかなければいけません。

お題目を唱える

多くの寺院では節分に併わせ、祈禱会や厄祓いの法要を行っています。私のお寺でも二月の第一日曜日の節分会の法要では厄払いと祈禱会を行い、毎年、二百名を超える檀信徒、聖徒の方がお参りをします。

みなさんの願いを守護神様にお願ひする為、まずは自らを清める水行を檀信徒、聖徒の見守る中、本堂の前で行い、その後、本堂で読経、修法、祈願を行います。

大聖人の不自惜身命、強盛な信仰にはほど遠いですが、真冬の水行は心身にかかる負担を与えています。しかし、この水行こそが多くの檀信徒、聖徒の方を佛さまに近づける為の一歩だと思えます。

お参りしているみんなが「南無妙法蓮華経」とお題目をお唱えし、その中で水を一杯、一杯とかぶる。その姿を見ている人は水をかぶつてなくても、共に寒さを体感している事と思えます。そこには「南無妙法蓮華経」で一つになる僧俗の姿があり、心からご神仏に向かう真摯な信仰の姿が現れると思えます。

「法華初心成佛抄」の「口に妙法をよび奉れば我身の佛性もよばれて必ず顕れ給う」の姿です。

来月は「お彼岸」です。どうか、この信仰の気持ちを持続し、俱生神月守を着帯し、他の人にもお勧めし、感謝の気持ちを持ち、ご本佛様・俱生神様への誓いを実践するお彼岸をお迎え下さい。

その地に聖徒の皆様が一同に会し、一心に唱える「南無妙法蓮華経」の御題目は、混迷を極める現代社会に生きる我々の一筋の光明となることでしょう。

今大会の運営にあたり、身延山当局はじめ身延山商店会にご協力を仰ぎ、当会役員一同が一丸となつて準備に取り組んでおります。皆様多数のご参加をお待ち申し上げております。

また、恒例となりました夜の唱題修行。竹燈籠の奉納の際に御回向・御祈願の申込を受付けます。皆様の真心を灯りに込め、奮つてお申込下さい。

本誌イラスト 小川けんいち



日蓮宗断断師会 第四十九回全国結集身延大会

五月二十日・二十一日に開催される全国結集身延大会。本年で四十九回を数えるこの大会は、全国聖徒団団長上人はもとより、俱生神月守りを身に帯し、御題目の信仰によつて様々な苦難から救われた方々をはじめ、全国の聖徒一人一人の信仰により受け継がれてきた大会であります。

「日蓮が弟子檀那等は、此の山をもととして参るべし。此即ち靈山の契なり」また、「此の山はゆるぐ木草も流るる水の音までも妙法の五字を唱えずと云うことなし」と宗祖大聖人自らが仰せになられた聖地身延山。



その地に聖徒の皆様が一同に会し、一心に唱える「南無妙法蓮華経」の御題目は、混迷を極める現代社会に生きる我々の一筋の光明となることでしょう。

今大会の運営にあたり、身延山当局はじめ身延山商店会にご協力を仰ぎ、当会役員一同が一丸となつて準備に取り組んでおります。皆様多数のご参加をお待ち申し上げております。

また、恒例となりました夜の唱題修行。竹燈籠の奉納の際に御回向・御祈願の申込を受付けます。皆様の真心を灯りに込め、奮つてお申込下さい。

本誌イラスト 小川けんいち

砥森山 法華寺

生きて救われの道場

住職 阿部 是秀
副住職 阿部 是眞

〒028-0304
岩手県遠野市宮守町下宮守31-69-1
電話 0198-67-3166
FAX 0198-67-2227

正立山 妙法寺番神聖徒団

団長 新聞 信應

毎月1日 10時
盛運祈願祭

お困り事はすぐ相談

神秘秘密の扉が開く時、必ず利益がいただける。

〒690-2404 島根県雲南市
三刀屋町三刀屋1169
TEL 0854-45-3657
FAX 0854-45-3666

安房乃國隨一 三十番神祈願道場

顕本寺聖徒団

団長 小泉 輝泰

「1人で悩まず、まずは相談」

〒295-0002
千葉県南房総市千倉町川合690-1
TEL 0470-44-1062
FAX 0470-44-1524

信用第一の専門店

◇格調高い関東風仏具◇

宗務院指定

仏壇・仏具 仏像彫刻
内陣荘厳具 設計製作

(株)中野三佛屋

東京都台東区寿2丁目7の12
電話 03(3843)6951
FAX 03(3843)6973
定休日 日曜日

北海道運輸局長
認証工場(第4-1095号)です!

お車のことなら
どんなことでも!!

車買取のエース
7.0166 34-3606

(有)キクチ自動車
〒078-8346
北海道旭川市東光6条6丁目190-100
TEL/FAX 0166-34-3606